



Be creative !

「子どもでも社会は変えられる。大人になるまで待たなくていいよ。」—露木しいなさん



先日、新聞を通して、素敵な人に出会いました。皆さんに紹介したいと思い、露木さんのことを検索し、彼女の YouTube を何本も観ました。現在、22歳。十代のころから講演や動画で気候変動について発信をしている“Z世代”の環境活動家であることがわかりました。素敵な人に出会うと、みんなにも知ってもらいたくなる。5月の校長室だよりの内容はこれだ！今月号は露木しいなさんを皆さんに紹介します。

右下の写真は、彼女が通った高校。世界一エコな学校と呼ばれるインドネシアの Green School です。中学卒業間近、「英語の勉強をするために海外留学をしたい！」と願う彼女は、母親にそのことを相談します。お母さんは「英語を学びたいだけならば日本だってできる。」と反対。「それだけじゃない目的を持って留学するならば応援する」彼女は一生懸命探します。竹で組み立てられた開放感あふれる校舎。「ここでなら、きっとおもしろいことを勉強できるはずだ。」彼女はこの学校に入学することを決めます。



「Green School」の特徴は3つ

この特徴について話す時に彼女はこんな前置きをしています。「この学校の学びのシステムが変わるタイミングは本当に早い。だから、今からお話するのは、あくまでも自分が通学をしていたころのことをベースにしています。」

(1) 学校のカフェテリアでお肉のメニューがない

畜産業によりCO₂がどれだけ排出されるのか、皆さんは知っていますか。彼女の通ったこの学校は「世界一エコな学校」と呼ばれ、気候変動を始めとする環境問題を学びのプログラムの中心に据えています。学校全体で排出するCO₂を削減するために、まず取り組んだことがメニューからお肉をなくすことでした。結果CO₂を半分に削減することができたそうです。



(2) 教科書がない

露木さんもこれにはびっくり。「どうやって勉強するの？」授業はすべてその授業を担当する先生によってプログラムされます。先生の学んできた知識、体験をもとに組み立てられ、まさに「この先生だからこそ教えられる授業」だったと彼女は言います。教えたいという先生の情熱と、学びたいという生徒の思いがマッチした授業だったとのこと。

(3) Independent Study の実践—自分自身で授業を作る

授業は大学のように選択制。好きな授業を選択し、一定の単位を修得することにより進級や卒業が認められます。そこは、日本のシステムと変わりはありませんが、一つ違うのはその選択肢の中に「I do not like any classes.」というものがあること。これをクリックすると、「自分で授業を作る」ことに進みます。授業は学校のモット

一(安全性 責任感 共感 持続可能性 平和 平等 共同体 信頼)に沿った中身であれば、OK。先生のそれなりのサポートはありますが、あくまでも原則は「自分の頭で考える」こと。本で調べ、人に尋ね、工夫して調査研究を積み重ねます。彼女もこの仕組みの中で単位を修得しました。

一番学んだこと、それは「人数分の“答え”がある」ってこと。考えることは無限だ！

現在、彼女は大学を休学し、日本中の学校で環境問題について講演の活動を展開しています。「大学は待つてくれるけど、気候変動は待つてくれない。」北海道から沖縄まで、トータルで220校、約3万人余の若い人々に自分の思いを伝えてきました。彼女のホームページの冒頭には「意識ある選択が地球を救う」とあります。自分自身の信念に基づき、力強く彼女は歩んでいます。

インターナショナルスクールで学んだ彼女には当然ながら海外の友人が大勢います。その多くの友人たちから学んだことは「人数分の“答え”がある」ということ。育ってきた環境により、その人の「普通」は違う。自分自身の「普通」がいつも誰にも通用するわけではない。主張することも同じ。主張することは大事なことで、でもそれが常に正しいわけでもなく、誰にでも理解してもらえないわけではない。自分にとって正しくても、別の側面から見れば、正しくないこともある。大事なのは「相手へのリスペクト」、これを忘れずに自分自身の意見を主張し、他人の意見に耳を傾けることだと彼女は言います。

これからも私は彼女の活動に注目をしていきたいと思います。活力ある人に出会い、元気が出ました。

今年もクラTの季節が来た！



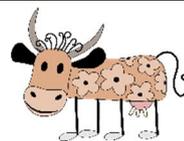
今年もこの季節がやってきました。クラTシャツ作成の季節です。すでに今年の縦割りチームも決まり、球技大会・体育祭に向けての動きが始まっています。「オリジナル

にこだわる！」各クラスのTシャツ作成の中心メンバーが短い期間の中でシャカリキに頑張り、まもなく完成です。このTシャツとともに、君たちのほつらつとした笑顔、躍動する姿に会えることを楽しみにしています！



今月の言葉 — アルベルト・アインシュタイン

何かを学ぶのに、自分で経験する以上にいい方法はない



テレビ好きの私がふと目に留めた三和シャッターのCMで使われていたアインシュタインの言葉。「納得！」というほかない言葉だった。先に紹介した露木さんの学びにも通ずるアインシュタインの言葉だ。「まずはやってみる」そして振り返る。やってみると、いやなこともある。損をしたような思いになることもある。やらねばよかったと思うこともある。失敗もしてしまう。でも、「無駄なことは何一つないんだ」と思える時がやってくる。必ずやってくる。60年以上生きてきた私の実感である。みんなも未来の気づきを楽しみに！